

- 1 次の  $u = u(x, t)$  ( $x = (x_1, \dots, x_n) \in \mathbf{R}^n, t > 0$ ) に対する熱方程式を考える .

$$u_t = \kappa \Delta u \quad (0.1)$$

ただし,  $\kappa$  は正定数である . また, 関数  $u(x, t)$  および  $\lambda > 0$  に対して, 関数  $u_\lambda(x, t)$  を  $u_\lambda(x, t) := \lambda^n u(\lambda x, \lambda^2 t)$  で定める . このとき, 以下の問いに答えよ .

- (1)  $u$  が熱方程式 (0.1) の解であれば,  $u_\lambda$  も熱方程式 (0.1) の解であり, 次式が成り立つこと (すなわち, 総熱量が不変であること) を示せ .

$$\int_{\mathbf{R}^n} u_\lambda(x, t) dx = \int_{\mathbf{R}^n} u(x, \lambda^2 t) dx$$

- (2) 任意の  $\lambda > 0$  に対して  $u_\lambda = u$  を満たす熱方程式 (0.1) の解  $u$  を自己相似解と呼ぶ . (0.1) の自己相似解  $u$  で  $x$  に関して球対称であるような解は, 半直線上  $[0, \infty)$  の関数  $\phi(r)$  を用いて,  $u(x, t) = \frac{1}{\sqrt{t}^n} \phi\left(\frac{|x|}{\sqrt{t}}\right)$  と書けることを示し, さらに  $\phi(r)$  が満たす常微分方程式を導け .
- (3) 熱方程式 (0.1) の  $x$  に関して球対称であるような自己相似解で, かつ  $x = 0$  で滑らかであるものを全て求めよ .

#### レポート作成上の注意

- A 4 版のレポート用紙を使用し, 表紙を付けること . 表紙には科目名, レポート番号, 学籍番号, 氏名を記入すること . レポートの左上をホチキス留めすること .
- 最終的な答えだけでなく, 途中計算を分かりやすく説明すること .
- ワードプロ,  $\text{T}_\text{E}_\text{X}$  等は使用せず, 手書きで (丁寧な字で) 作成すること .
- レポートは次回の講義終了後に回収する .